

議 長
確認印

経済常任委員会会議録

1 日 時	開会 令和2年10月13日 9:30 閉会 令和2年10月13日 11:50
2 場 所	委員会室及び現地
3 出席委員	下重義人、吉村守広、藤田一男、吉田克則、菊地哲也、鈴木孝則
4 欠席委員	なし
5 出席要求者	なし
6 職務出席者	議会事務局長、書記
7 説明員	まち振興課長、まち振興課長補佐、商工観光係長 農林推進課長補佐、農政係主任技査
8 傍聴人	なし
9 付議事件	第1 自転車を活用した町づくり施策の現状について 第2 ダリア生産体制の現状について その他
10 議事の経過	<p>吉村守広副委員長開会 下重義人委員長あいさつ</p> <p>第1 自転車を活用した町づくり施策の現状について 委員長：担当課長より説明を求める。 （まち振興課長が資料に基づき説明する） 委員長：何か質疑はあるか。 吉田委員：推進計画策定にあたり財源補助はあるのか。 まち振興課長：計画策定にあたって国庫補助はなく、50万円ずつを東白川4町村で負担し、残り はサポート事業を活用した。 鈴木委員：ツール・ド・はなわ運営の委託方法はどのような形か。 まち振興課長：大会開催にあたる人件費や機材レンタル分が委託料に含まれている。 委員長：予算の中で委託料が減額されている理由と、協議会構成員はどのような方か。 まち振興課長：毎年大会を開催する事で、運営機材を揃える事ができるために委託料が減額してき ている。協議会構成員は、行政区長や体育協会、スポーツクラブ、商工会、棚倉警察署。また 県南地方振興局や県南土木事務所がオブザーバーとして参加し、総勢25名。 委員長：自転車活用推進計画期間終了後の見直しはどのように考えて進めていくのか。 まち振興課長：国が新たな2次計画を策定中。協議会としても道路環境整備が最優先で、協議会内 の整備チームが郡内4町村の道路環境の状況から要望事項を取りまとめ、県や国に要望してい く。 委員長：その他質疑が無ければ日程第1は終了する。 （まち振興課長、課長補佐及び商工観光係長は退出し、農林推進課長補佐及び農政係主任技査が入 室）</p>

第2 ダリア生産体制の現状について

委員長：担当より説明を求める。

（農林推進課長補佐が資料に基づき説明する

委員長：これから質疑を行うが、まず質問したいのは、市場流通のための販路拡大とあるが、生産体制は対応可能なのか。

主任技査：生産者数は平成24年をピークに減少しており、その要因は雪害などの自然災害や、ダリアの取引価格低迷によるもので、生産者自身がダリアを栽培し出荷してもメリットを感じない状況になってきている。そのため海外への販路拡大に挑戦し、生産体制を何とか維持できればと思う。

藤田委員：特定業者と生産者が直接取引できる取り組みや、栽培品種を絞ることはできないのか

農林推進課長補佐：直接取引した事はある。また大規模産地が人気品種に絞っている例もある事から、品種絞込みも案として考えている。

鈴木委員：ダリアの産地として、品質維持のためには取引価格を維持する取り組みも大切で、町はもっと生産者を守る取り組みを行うべきと考える。

主任技査：農協出荷時に共選されてしまうことで、品質が下がる懸念があるが、何らかの手立てを検討したい。

委員長：その他質疑がなければ、ダリア生産の圃場を現地視察する。

（全委員が台宿地内の圃場へ移動し現地視察をし、説明員は退席）

委員長：まとめとして、議会への報告は委員長一任とし、各委員からの報告書提出期限は10月末としたいがどうか。

（異議なし）

委員長：期限内での提出をお願いし閉会する。

副委員長：閉会

埴町議会委員会条例第27条の規定により署名する。

令和 年 月 日

経済常任委員長